

CONTENTS

page.1

園長コラム「変化するモノ、変わらないモノ」
—— 信楽学園園長 山之内 洋

野外活動 —— 松川 義朗

page.2

社会体験プロジェクト
若手職員による企画記事

page.3

社会体験プロジェクト
児童の変化についてのエピソード
「工場での子どもたち」—— 逢坂 淳也
「寮での女の子たち」—— 村田 重子
「卒園後の子どもたち」—— 中原 朋紘

page.4

学園メモリーズ【最終回】
—— 障害担当理事 牛谷 正人
演劇発表会のお知らせ
—— 今澤 幹生
工場の「構造化」計画
—— 西川 まみ
編集後記

【表紙写真】山手寮から見た信楽の町



園長コラム「変化するモノ、変わらないモノ」

今号ではいくつかの角度から「変化」をテーマに、お伝えできればと考えています。今年は平成が終わり、新たな時代が始まります。福祉業界に限らず、社会全体が大きく変化してきました。

学園の児童たちも寮での生活や工場作業、就職活動など様々な取り組みの中で、成長という変化を見せてくれています。また卒園後には立派な大人となった姿を見せてくれています。入園時には自分の気持ちを表出できなかった彼も少しずつはっきりと相手に伝えることができるようになりました。後輩の態度にいつもキレて暴言を言っていた彼女は、ちょっとした嫌味に対しても我慢できるようになりました。自分は何でもできると強がっていた彼もまた自分自身を見つめ直し、自身の苦手な部分を受け入れられるようになったりしました。

世間一般で彼らの年齢から見ると、当たり前のことかもしれませんが、学園の児童たちはその世間とのギャップの中で苦しんでいるのも本当の姿なのです。我々職員はそのちょっとした変化をどのように周りの人たちに伝えていけばいいのかを考えています。支援の場面ではそのちょっとした変化を期待して、見守り続ける時もあります。もちろん助言をしたり一緒に考えたりすることもあります。信楽学園にはそのようなちょっとした変化があちらこちらで溢れています。

一方で、変わらないこともあります。学園の中で取り組んできた児童に対する支援方針です。創設者の池田太郎氏の残された思いを継続しつつ、今の児童にも取り組んできました。全寮制で生活スキルを、工場作業（窯業）を通して、働く力を身につけていただくこと、将来の社会生活での自立に向けて取り組んできました。

それから児童たちの笑顔も変わらない一つです。その笑顔はこれまでもこれからも変わらないものかもしれません。学園を支えている大きな力だとも感じます。

私が就職して間もない頃に、ある先輩からこんなことを言われました。「俺たちの仕事は、企業のように何億何千万というお金を稼ぐことはできないけど、俺たちが頑張れば、もしかしら、その目の前にいる児童や障害のある人たちが笑顔で暮らすことができるようになるかもしれない、しんどいと感じていたことが少し楽に感じてもらえるかもしれない。それがこの仕事の報酬の一つかもしれない。」と。

当時の私にとっては、この言葉が胸に深く突き刺さり、誇りにさえ感じ、この仕事に携わってまいりました。

それから20数年が過ぎ、施設の中で利用者（児童）と関わることだけではなく、施設の運営管理や経営的なことも業務の一つに加わり、私自身の仕事の中身も変化してきました。

しかし、変わらない彼らの笑顔とともに、青臭くもこの言葉を心の糧として、これから先も様々なことにチャレンジして、変化していきたいと考えています。変わることに誇りを大切にしながら…。

【園長 山之内 洋】



野外活動

今年度は、8月7日・8日の1泊2日の日程で、長野県は標高1925mの車山を中心とした車山高原での登山活動を実施しました。高原リゾートで関東からも近いこともあり、休日の日には多くのハイカーで賑わう場所です。

白樺湖畔のコテージに分宿して、夜は火起こしからのBBQも堪能しました。登山当日の後半はあいにくの雨に見舞われましたが、移り行く自然環境の厳しさを肌で感じた貴重な体験となりました。

昨今の児童の気質からか、練習の段階からみなが同じ方向にベクトルを向けることが難しく、全体の達成感が得難い状況が続いています。これも時代の『変化』なのでしょう。支援する職員側にも、技能面や年齢的な『変化』が訪れているのでしょうか。その『変化』を当たり前前提条件とし、その年の活動を「Only One」として捉え、過去との比較は避けて事業に臨むことが大切であると感じました。そんなことを感じさせられた野外活動でした。

【松川 義朗】

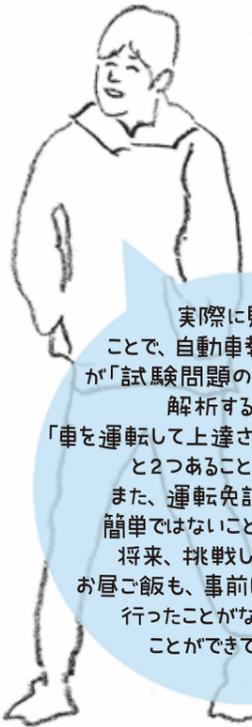




信楽学園の「社会体験プロジェクト」

対象児童

3年目 男子



彼の感想

実際に見学することで、自動車教習所の役割が「試験問題のわからないところを解析すること」と「車を運転して上達させて免許をとるところ」と2つあることがわかった。また、運転免許をとることは、簡単ではないことがわかったが、将来、挑戦したいと思った。お昼ご飯も、事前に調べて、地元で行ったことがないお店に行くことができて良かった。

目的

車が好きで、将来、普通自動車の免許を取りたいと思っている。でも、教習所では、どんなことをするのか、どのようにして免許がとれるのかなど、具体的なイメージがわからない。そこで、運転免許を取得するためのイメージをより具体化させ、免許取得を実現していくために社会体験プロジェクトを計画する。

方法

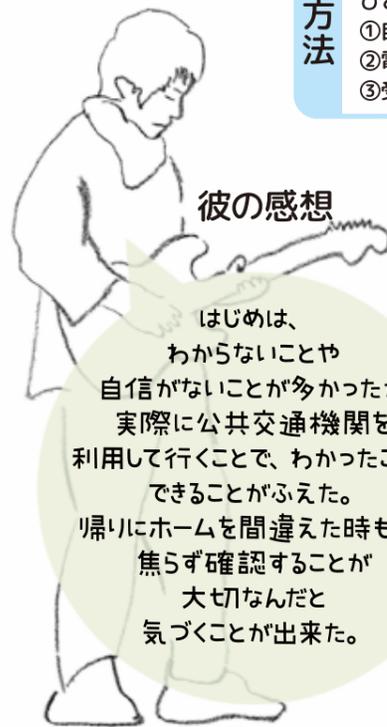
- 運転免許取得を実際の生活エリアで考え、最寄り駅から免許センターまでの経路を一緒に確認する。
- 地元の自動車教習所の施設見学をする。
- 事前・事後の記入シートを活用し変化を確認する。

職員の感想

自動車教習所の方から、教習所の利用の仕方や、実技・学科のそれぞれ必要な受講数など具体的なことも教えてもらい、普通運転免許取得までのプロセスが大変であることや説明だけでは難しくわかりにくいと感じたことなど、彼にとってたくさんの発見があったのではないかと思います。また、社会体験プロジェクトを利用して体験してもらうことで、職員も彼のことをより理解する機会となりました。

対象児童

3年目 男子



彼の感想

はじめは、わからないことや自信がないことが多かったが実際に公共交通機関を利用して行くことで、わかったこと、できることがふえた。帰りにホームを間違えた時も焦らず確認することが大切なんだと気づくことが出来た。

目的

卒業後にひとりで公共交通機関を利用して、通院出来るようになることを目的とする。「ひとりで電車に乗る」ことが出来るようになることで、通勤範囲が拡大でき、余暇の充実につなげることを目的とする。

方法

- あらかじめ、自宅から病院までのプロセスを分解し、ひとりで出来る事を記入してもらう。
- ①自宅からバスに乗り最寄駅に行く。
 - ②電車を乗り継いで定期通院している病院に行く。
 - ③受診後、薬局で薬をもらい自宅に帰る。

職員の感想

「わからない」「自信がない」「やったことがないからわからない」など経験不足から不安が確認でき、路線図や時刻表の見方を事前に伝えることができた。当日は自分から確認をしている様子がみられた。その後、毎回の定期通院は、自分で通うことが出来ている。また、就職活動の際も自分で公共交通機関を利用している。自信がなかったことが経験することで、出来ることに変えていけたことをこれからも活かして欲しい。

若手職員による企画記事

1~3年目の



1年目の園生

●学園に来て半年たちましたが、自分自身で変化は感じましたか？

「町内実習に体験に行ったりして“働く”というもののリアルが見えた。工場では職員が質問したら答えてくれるけど、やっぱり実習先では1回で聞かないといけないと思った。」

●入園してここは変わったなと思うところは？

「寮生活や日課を通して規則正しい生活ができるようになったことかな。工場作業や体育

をする中で体力や集中力も付いたし、心身ともに鍛えられたと思う。学園は行事もたくさんあって正直嫌だなと思う事もあるけど、それを乗り越えたら就職ができると思って頑張っている。

あと僕は中学校のときはあまり学校も行かなかったし、人とコミュニケーションをとることがあまりなかったけど、学園に来て人とコミュニケーションをとることが増えたり、それは良かったと思う。ただ、今振り返って見たら学校って楽しかったな、あの時しか経験できひんようなことがいっぱいあったかなって思う。だから今の中学生で学校に行っていない人には行った方がいいって伝えたい。」

●学園に来て考え方の変化ってありましたか？

「やっぱり自分自身が“障害者”という目で見られるところは最初しんどさがあった。でも言い訳とか生活するところまでマイナスなことばかりじゃなくなって思うようになった。ポジティブになったのもあるし、やっぱり前に進んでいきたい気持ちがある。」

●もっとこうしていきたいという目標はありますか？

「僕の目標は会社で働くことが目標。まずは実習に行って、続けて行くことかな。どんなことでもちょっとずつ取り組んでいったら、心身ともに鍛えられるし後で何かと役にたつことが出てくると思うから自分ができるとか小さなことでも良いけど何でもコツコツと頑張りたい。大きな目標・夢は“すごい人”になること。でも周りからすごいって言われなくても良い。自分自身が頑張っていると認めるような人になりたい。」

●一言あればお願いします。

「ありがたい言葉なんですけど、今頑張ってるから必ず報われるんじゃないかって。僕はずっと頑張ってたから人、なんもしてなかった人なんて何も言えないけど、でも今頑張ってるので言わせて下さい。あきらめたいときにはあきらめたら良い。本当にしんどいことはしんどいでやめて良い。でも目標に前進することは忘れずにやっていきたいと思う。」

2年目の園生

●学園に入園してきて、生活面の変化がありましたか？

「生活リズムが家にいた頃より、よくなった気がします。」

●入園してきて工場作業はどうでしたか？

「すごく手が痛かったです。箸置きで。働きたいと思って、

学園に来てたので。その思いがあったから頑張ってた。後半の方はゆがみ始めましたけど。怒っちゃったりとか。あまりにも他の園生が喋っていたりとか。今はうるさくても作業できますけど。実習先の方が物音すごいで。うるさくても作業ができるように前よりはなりました。」

●町内実習に行って苦痛やしんどいと思うことはありますか？

「説明が少しアバウト。分からなくはないけど、それ、あれ、こっち、あっちと言われてあんまりピンと来なかったり。」

●町内実習に行って、生活面や意識など変化したことはありますか？

「就職、就職してもっと簡単に見てたんが、結構つらいもんだなって。人間関係が思ったよりもつらかった。職場の人。向こうの人同士でも、みんな休憩している場所が違ったりとか。雰囲気あんまり。人との関わりが一番たいへんやあって。コミュニケーションができれば、仕事できないんだなって。」

●コミュニケーションでこんな場面で困ったなと思った経験は？

「やっぱり質問するのが大七なことで、聞くのがこんなんでいいのかなって聞くのが難しかった。すぐに質問できるのは一部の人に、でもそれはあかんやあって理解してるので、実習先では報告は色んな人に言ってる。なんにもすることがなかったら、大抵掃除を終わってない場所をやって、何かやること聞かされて感じ。初めてやるようなところは、言われなくてわからないが…。ちょっとずつはできるようになった。」

●町内実習について生活面はどう変化しましたか？

「1年の頃より、早起きができるようになりました。6:25に起きて準備して7:15までに学園を出る。出発時間はじめは、職員に決めてもらった。いい時間を自分で考えている。体を動かすことが増えた。」

●3年目に向けて、どんな自分になっていきたいですか？

「1人暮らしを考えているので、お金の管理とかできるようになれば。今の甘えた生活よりは、もっと自分でやることを増やさないと思っています。今、就職に向けては、卒をもっと綺麗にかけようにならないとダメだな。いつも走り書きやったりするので。」

3年目の園生

●入園時の気持ちは？

「学園に来た時は就職のことはいっさい考えていなくて、信楽学園に来たら周りの誰にも文句言われないうらと思ってきた。就職するための場所ということは全く考えていなかった。」

●1年目の時はどうでしたか？

「少しだけ真面目に出ていた。嫌なことがあると部屋に引きこもるときもあった。でも、箸置きづくりは頑張ってた。1年目で特別賞をとった。その後は、かわらけの成型とめしをしていて。投げ出し気味だった。少しきつかけが違って変わった。」

●変化のきっかけとは何があったの？

「年上の先輩がいてその人に憧れた。その人の背中を追って頑張った。1年の頃は職員さんの言っていることが分からなくて、別に私のことなんてわからないしと思ってた。でも、あこがれの人がすごく熱く声をかけてくれた。だから、頑張ろうって思った。」

●町内実習にはいつから行っているの？

「行きたいと思い始めたのは、2年生のはじめから。人の役に立ちたいと思ったから。実習に行くために1人で起きること、感情のコントロールをすることという目標を立てた。行き始めたのは2年生の6月から。早く行けたとしても嬉しかった。」

●2年目で後輩ができて変化はあった？

「はじめは下の子が入ってきて焦って、おせっかい焼いているだけになってた。もう少し慎重に後輩を見てあげればよかった。でも今やっと自分のポジションがわかってきて、影でフォローする役に回っている。」

●就職はいつから考え始めたの？

「3年生のはじめから。憧れの人も卒業してしまっただけで何かがない無理だと思った。強い思いがないとやっていけないし、卒園式の時点で決意を決めた。」

●トライアル雇用が決まった今の目標・これからやりたいことは？

「就職先は正社員になれる見込みがあるからコツコツとパートナーの仕事をして正社員になりたい。変わったきっかけをくれた人たちにたいして恩返しをしたい。生活面では、冷静に物事を判断して、嫌にならない程度に身の周りの事をこなそうと思っている。」

●3年間で信楽学園で過ごしてどうだった？

「後悔はしてない。嫌なこととか失敗したことはいっぱいあったけど後悔はしてない。でも就職してからが大切だと思う。」

社会体験プロジェクトとは？

信楽学園では、在籍中にたくさんの経験をしてもらい、その後の社会での生活に活かしてもらえればと考え、平成28年度から「社会体験プロジェクト」として、児童に様々な経験や体験をってもらう取り組みを実施しています。

これまでは集団活動の中での取り組みが主となっていましたが、今年度からはより個別なポイントにも絞って実施しています。

今号では今年度実施した個別社会体験プロジェクトについてご報告いたします。これからは児童一人ひとりの経験値を高められ、新たな社会生活に向けての見通しが持てる第一歩となるよう取り組んでいきます。

対象児童

3年目
女子

目的

自宅からの職場実習後、久しぶりに電車を利用して、一人で帰園（自宅から学園まで戻ってくる）することに、不安との声があり、卒業後、ひとりで公共交通機関を利用できるようになるためのステップとして、社会体験プロジェクトを計画する。

- 改札口やホームの電光掲示板や時計をみて確認すること。
- わからないときは駅員さんに聞けばなんとかなる。

方法

- 一人で公共交通機関を利用できるようになるためのポイントを「事前記入シート」にて確認してもらう。
- 「事後記入シート」で振り返りを実施し、できたかどうかを含め、感想を書いてもらうこととした。

彼女の感想

体験前は、「電車に乗ってもみんなについて行っていたから不安。」（通常の帰省・帰園は、職員が信楽＝草津間は毎回同行している）
体験後は、「家に帰る前に練習ができてよかった。」また、同行、見守っていた職員に、学園に戻ってきてから、「ほら、できるやろ。」と言って、得意げな顔をしていた。

職員の感想

実施前は不安を持っていたが、実施後は自信をもつことができ、気持ちに大きな変化がみられた。電光掲示板を見て行動することもできていて、今後の公共交通機関の利用にも役立つものと考えます。
また、できていること、気を付けるべきところ、彼女の気持ちの変化がみられ、とても有意義な社会体験プロジェクトとなった。

対象児童

中学2年
男子

目的

今年の4月に入園してきた男子。現在は町内の中学校に通っている。現在はほぼ学園に残留している。将棋が大好きで、寮内で一人将棋をしたりしている。体を動かすことも大好きで、特に卓球が大好きなので自分で行けるようになること。

方法

- 信楽高原鉄道、JR、帝産バスを乗り継いで草津にある滋賀県立障害者福祉センターに行き、プールを利用するプランを立てた。公衆電話を使っての学園への報告、昼食の購入も今回の計画に合わせて組み入れた。

彼の感想

公共交通機関の利用、公衆電話の利用、昼食の購入などの経験がなく、実際にすると不安がある。将来は就職して一人暮らしがしたい。
公衆電話がわからない。受付で聞くのは恥ずかしい。実際にやってみて気づけたこともあった。もっといろいろ経験したい。

職員の感想

彼は職員が想像していた以上に、公共交通機関の利用について経験がなく、分かっていないことが多く見られた。切符の買い方、改札の通り方、バスの乗車方法などは経験がないために、一人ということでは難しく、歩行者の左側通行（エスカレーター）、電車を2列で待つということなどの社会的ルールやマナーもほとんど知らなかった。
彼の現在の状況を把握するために有意義であったと思われる。日頃の彼の関わりの中ではもう少し経験があるのかなと思われていたが、社会のルールやマナーなどはほとんど経験値としてなかったため、今後は事前学習などをしながら、実際に体験するといった取り組みを考えていく。

児童の変化についてのエピソード

「工場での子どもたち」

信 楽学園は毎年4月に新入生を迎えて、次の年の3月に卒業生を見送る流れがあります。入園して間もない子どもたちは中学生気分が抜けずまだ右も左もわからないまま学園生活に入っていきます。

入園して最初の試練は作業場での箸置き作り。ひたすら作り続ける単純作業。やりだして間もない時はいいのですが時間の経過とともに「飽き」と型抜きによる「手の痛み」の壁にぶつかります。職員からの声かけや励ましでなんとか前期の生産競技会に挑んでいきます。その後は箸置き作業から機械組くまでの成型や仕上げ作業へと移行し、ここで箸置き作業での試練が活かされています。

始業前確認、作業終了報告や次の作業確認、月末の振り返りを通して、社会で働くことを学んでいきます。また寮での生活面では食事、当番活動などを通して、生活習慣を定着し、自立に向けた支援をしています。近年は発達障害の子どもも多く周りに合わせる事が苦手な場合もありますが、職員と共に歩幅を合わせて進んでいます。



2年目になると新入生が入園して先輩になります。また園内から園外実習へと向かいます。園内作業と違い実社会の一端を学習する機会となり、人間関係や実習内容で葛藤を感じる子どもも多いです。実習を続けることの大切さを学びます。

3年目には進路選択が目前に迫り日を迫ることに焦りを感じていきます。最終進路は自身で決定します。3年目になった際1年目の様子を振り返ると色々な面で成長していることを感じます。進路の合間等で3年目が園内作業に就いた際、作業確認や作業に対する姿勢などをみるとやっぱり3年目だなと感じます。毎日接していると成長を感じにくいのですが、長いスパンで見ると特に思われます。職員として成長を感じられるからこそやりがいを持っています。今年も成長した勇姿を見られることを楽しみにしています。【逢坂 淳也】

「寮での女の子たち」

山 手寮は信楽学園の1番奥にある女子寮で、現在9名が在籍しています。朝6時過ぎ当番の園生が眠い目をこすりながら起きてきます。検温をすませると朝食の味噌汁作りが始まります。味噌汁のいい香りが漂う女子寮の1日はここからスタートします。

私はこの光景をもう10年も見ているわけですが、勿論毎日スムーズに行くわけではありません。3年目の先輩から2年目そして1年目へと毎日の日課が伝え引き継がれます。朝起きが苦手な子どもも多く先輩から「いつまで寝てるんや早く起きや〜」の声に飛び起きる子、それでも起きず職員に布団をはがされても寝ていたいと頑張る子、信楽の冬は特に寒く初めての冬を迎える1年目には厳しい季節となります。若い職員さんは、朝から味噌汁作りなんてした事もなく尊敬しますと言われていました。



子どもたちが少し楽になる火、木、日はパンの日です。トーストを焼きバターを塗るにも決まり事があります。陶芸用語でなめすと言うのですが、バターナイフで表面をなめらかに削り取ります。新任の職員など何も知らずにバターを掘ったら大変です。園生から「綺麗にとってや、掘ったらあかん」と指導が入ります。3年目から代々後輩に受け継がれている伝統だと言います。

私 が学園に来た頃は3年目の先輩の言うことは絶対的なものでした。町内実習に毎日行き、当番活動もしっかりこなす出来る先輩に口答えなどする人はいませんでした。各学年に1人リーダー的な人がいて女子寮は回っていたのかわかりません。

ここ数年は知的障がいの人よりも発達障がい、特に愛着形成に課題のある園生が多く「私を見て、私の話を聞いて」と職員にかまって欲しいからと、部屋の押し入れにこもり出てこない。イライラすると昼夜を問わず寮を飛び出し迎えに来てくれるのを待つなど集団生活が難しい人が多くなっており、コミュニケーション力の大切さを強く感じています。職員はあなたを見ているよ、大丈夫だよと安心して生活してもらえよう支援をこれからもしていきたいです。【村田 重子】

「卒業後の子どもたち」

信 楽学園から地域生活へ移り、仕事や生活の中で様々な事で喜び、悩むことで日々成長すると共に社会の厳しさを知っています。信楽学園の生活はルールが多く、卒業し自由を手にするが、同時に自己責任の重みも併せて感じています。

今年からフォローアップの対応記録簿を付け始め、小さなことから大きなことを含めて、半年で約150件の対応をしています。年間で数えると300件になり、内容は本人からの連絡で聞くこともあれば、関係機関から近況を伺うこともあります。何らかの人間関係の内容が多くの割合を占めているように感じ受けます。地域で暮らし働くことが卒業生にとって良くも悪くも成長することに繋がっています。

また10年前に比べて携帯電話、SNSなどインターネット環境の発展もあり、便利な世の中になってきました。その反面、ネットにはまり込む卒業生もあり、それが原因で会社などに行けず退職するケースも耳にしました。フォローアップの相談内容も変化し多様化してきている現状です。

卒

園生の支援に関わると信楽学園の在園時に何を支援し経験を積み、社会のスタートラインに送ればよいのか、課題としてはあります。根拠のある進路支援を今後も実施して地域で支えていただく関係機関へ『つなぐ』『つながる』『つなぎ直す』をモットーに、出来ることは限られてきますが、本人が社会で孤立することがないように見守り、応援していきたいです。【中原 朋紘】



学園メモリーズ



信 楽学園の通信に欄を設けていただいていた「学園メモリーズ」も今回で最終回になります。信楽にあこがれて着任した30年前を振り返る機会をいただいたことに感謝しています。最終回は、私が大好きだった（園生さん達がどうだったかはさておき）演劇学習発表会について綴ってみます。

学園の演劇は、冬期の娯楽が少なかった開設まもなくの時期から取り組まれてきた伝統ある行事です。私が着任したのが昭和64年1月（一週間後には昭和天皇が崩御され平成に）で直ぐに演劇発表会の練習に入りました。確かにこの時期、信楽は連日朝の外気温が氷点下で工場作業では粘土の表面が凍り付くことも珍しくなくその冷たさに悲鳴を上げる日々・・・そんな環境の中で演劇学習は始まりました。

着任した年に担当したのが「魔女の宅急便」の助監督、ちょうど宮崎駿のジブリで映画化された時だったと思います。現在行っている陶芸の森ホールと違って町民ホールで行っていたため制約がほぼなく、手作りで色々な工夫ができました。「エンディングではほうきに跨ったキキやジジを宙に飛ばせたい!」と無謀なプランを実現することができました。

2年目にはエンデの名作「モモと時間泥棒」の監督をさせていただきました。この作品も直前に映画化されていたため園生とイメージを共有しやすかった作品です。主演を演じた園生は普段から引っ込み思案で声もあまり出ず「彼女が主役で大丈夫?」と職員・園生とも案じていましたが、みごとに主演を演じきってくれました。

演 劇学習は配役も含めて園生の可能性を引き出す魔力があると思っています。長い台詞を覚えること、ステージでそれぞれの個性にあった場面を演出しスポットを浴びること、職員が裏方に徹して舞台を盛り上げること等・・・普段の作業中心の生活とは違った側面を見だし、引き出し、それがそれぞれの園生の自信に繋がりのステップを踏み出していききっかけになっていくことのすばらしさを実感させていただきました。【障害担当理事 牛谷 正人】



演劇発表会のお知らせ

今 年度の演劇発表会の演目は「アリとキリギリス～小さな世界の大きな助け合い～」童話の「アリとキリギリス」を題材に練習を重ねてきました。毎日一生懸命に働くアリ。毎日を楽しくのんびりと過ごすキリギリス。毎日をそれぞれ忙しく、楽しく暮らすアリとキリギリスに大変なことが!? このままではすべてが無くなってしまふ!! この状況でとった行動とは・・・それは共に生き抜き、共に働くこと。

この演劇を通して、毎日働く意味、楽しく過ごす意味を、そして、共に協力して様々な事に立ち向かう意味を感じてもらいたいと思っています。人前に立つことが苦手なメンバーですが、全力で練習に取り組み、全力で演じます。ぜひご鑑賞にお越し下さい。【今澤 幹生】

平成30年度演劇発表会 アリとキリギリス ～小さな世界の大きな助け合い～

日時 2019年
2月17日(日)
14時開演(13時開場)

会場 滋賀県立
陶芸の森 信楽ホール
〒529-1804
滋賀県甲賀市信楽町勸旨 2188-7



工場の「構造化」計画

工場構造化について～みんなでわかりやすく～

信楽学園の工場体制としてこれまで2つの工場で作業を実施していましたが今年度秋より窯のある第4工場で児童全員が作業をすることとなりました。また、今年度は滋賀県発達障害者支援センターからのコンサルテーションのテーマとして信楽学園全体が今まで以上に「構造化」を進めることになり、「誰が見ても」「誰が作業に入っても」わかりやすい工場を目指すこととなりました。

そ れぞれ職員が道具の位置や棚の場所など意見を出したり整理をしたりと準備の時間が少ない中、協力しあって11月より第4工場での作業を開始することがで

きました。1つの空間の中で毎日10人以上の児童が作業するにあたり、集団活動への苦手意識が強い児童や大きな音が苦手な児童など1人1人の特性に焦点を当てていくと、個別の空間・作業内容への配慮がさらに必要であり、掲示物の整理などこれから取り組むべき課題も多く見つかりました。

児童とも一緒に「ここにこれがあつたらやりやすいね」「こんな風を書いていたら見やすいかな」と意見を出し合いながら取り組み続けて行きたいと思っています。

そして日々の集団生活という枠組みの中で個別支援を組み立てていく難しさに直面しながらも、職員そして児童が必要だと思う仕組みや方針を話し合っ作り上げるという姿勢・視点は今まででもこれからも変わらずに持ち続けていきたいと思ひます。【西川 まみ】



お詫び 昨年12月に発生しました「重油の流出事故」について、地域住民の皆さまをはじめ、各関係機関等の皆さまには多大なるご迷惑とご心配をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。

事故の原因としましては設備の老朽化による故障と考えられ、日々の点検など危機管理に対する意識が弱かったと深く反省しております。今後、同じようなことを繰り返さないよう、職員一同、様々なことへの危機管理意識を高め、行動に移してまいりたいと考えております。皆さまにはこれまで以上に当学園へのご支援を賜りたく、お願い申し上げます。 園長 山之内 洋

編集後記

変りゆく世の中
変りゆく信楽学園
変りゆく園生たち
そんな中でも
いつの時代も大切なのは
寄り添いともに歩むこと
新しく年を迎えた今
この大切さを 改めて感じています。



信楽学園 ニュースレター Vol.8
Newsletter from Shigaraki Gakuen

編集・発行 ■ 社会福祉法人 グロー
glow ~生きることが光になる~
www.glow.or.jp
滋賀県立 信楽学園

〒529-1812 滋賀県甲賀市信楽町神山4 7 0
☎0748-82-0051 / email : shigarakigakuen@glow.or.jp

デザイン ■ 上垣 智史 / mdf@design